

令和6(2024)年度 足利中央特別支援学校 学校評価シート

教育目標、目指す児童生徒像、教師像、学校像

| | |
|----------|--|
| 教育目標 | 児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた教育と必要な支援を行い、その能力や可能性を最大限に伸ばし、健やかで心豊かな人を育む。 |
| 目指す児童生徒像 | [あかるく]前向きな気持ちを表情や声、言葉で表現できる児童生徒 [つよく]健康を保持増進し体力を高め、運動やスポーツにチャレンジする児童生徒 [たすけあう]人と隔たりなく心豊かに関わり、互いに支え合うことのできる児童生徒 |
| 目指す教師像 | 1 深い児童生徒理解に基づく丁寧な指導ができる教師 2 研修・研鑽に励み資質・能力の向上を目指し続ける教師 3 豊かな人間性を持ち信頼される教師 |
| 目指す学校像 | 1 安心・安全な学校 2 児童生徒が意欲的に学べる学校 3 地域社会に開かれた学校 4 教職員がやりがいを感じられる学校 |

令和6年度努力点

評価基準

A:達成できた(80%以上) B:概ね達成できた(50~80%) C:あまり達成できていない(20~50%) D:達成できていない(20%以下)

| 重点目標 | 推進担当 | 推進担当② | 達成目標 (評価項目) | 評価の観点 | 評価 | 取組状況 | 改善策 |
|---|------------------|-------------------------------------|--|--|----|---|---|
| 〔学習環境の整備〕 1 危険等発生時の体制整備と安全管理を徹底するとともに、保健教育・安全教育の充実を図る。 | 健康指導部 児童生徒指導部 | 危機管理委員会 ICT推進委員会 | ・各種研修を行い、教職員一人一人の危機管理への理解と啓発を行うことで意識の向上を図り、児童生徒の指導に活かす。 | ・防災訓練を始め、安全点検等々の研修を受け、危機管理意識をもち、安全点検やヒヤリハット事例の報告をすることができたか。 | B | ・各種研修(災害・防災安全、健康・保健安全、交通安全、給食安全など)を行い、危機管理意識の向上や一定の成果が見られた。 ・安全点検では、修繕箇所をみる視点ではなく、本来の目的である危険箇所がないかどうかの視点で確認することを周知した。 ・ヒヤリハット事例が発生した場合、報告とともに全体へ周知した。 | ・安全点検やヒヤリハット事例の報告件数が昨年と変わらない状況であったことを受け、日頃の安全点検が事故を未然に防ぐことにつながっていることを、研修の中で引き続き触れ、事前の危機管理の大切さを啓発していく。 |
| | 教務部 学習指導部 | | ・ICTの効果的な活用をはじめとする教材教具や指導事例の共有を通し、個に応じた指導を展開する。 | ・「教材集」フォルダの充実を図ったり、指導事例の共有を進めることで、個々の実態に応じた学習環境を整えることができたか。 | B | ・教材集フォルダの活用や教材教具のフォルダに格納してある教材データを収集し、教員全体で閲覧できるようにしたが、活用については、声掛けにとどまった。より活用を促す取組を行うことで、教材教具の充実、個々の教員の負担の軽減につなげられるようにしたい。 ・ICTの活用については、引き続き活用方法や指導事例について、研修等を行っていく。 | |
| 〔教育の充実〕 1 新学習指導要領に対応した主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に努める。 | 学習指導部 各学部 | 教育課程検討委員会 キャリア教育推進委員会 学校保健委員会 | ・教材や授業場面設定等を工夫し、主体的・対話的で深い学びを引き出す授業作りを行う。 | ・児童生徒の実態を適切に把握し、興味関心や強みを生かした教材作りができたか。 ・展開計画や時案等の作成を通して、児童生徒が主体的・対話的に学ぶ授業場면을意図的に作る事ができたか。 | B | ・教材教具については、児童生徒の実態や興味関心を適切に把握したり、教材教具展等の情報を共有したりすることで、作成及び工夫が進んでいる。 ・「主体的・対話的な学び」のある授業展開については、児童生徒のどのような取組の姿が「主体的な学び」となっているかの理解や情報共有は進んでいるが、それを学習活動の中で意図的に引き出していくための授業改善をさらに進められるとよい。 | ・「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善について、継続的に研修の機会を設ける。 ・展開計画の作成及び評価の際に、学習担当者で情報交換・共有をし、児童生徒一人一人について、学習活動における個別の達成目標や指導上の留意点、達成状況と課題等を確認する。 |
| | 進路指導部 | | ・キャリアパスポートを活用して、対話的に関わり、効果的な学習活動を展開する。 | ・キャリアパスポートの蓄積内容の見直しやワークシートの整備を行い、ワークシートを活用して、対話的な学習を行うことができたか。 | B | ・学部ごとに蓄積内容の見直しやワークシートの整備を行った。教員の記入欄を設けたことで、児童生徒が作成するだけでなく、児童生徒が作成した内容に対して、教員がメッセージを記入し、児童生徒と一緒に学習の振り返りを行うなどの成果が見られた。 ・ワークシートの整備、活用について委員会の先生方を中心に実施した。ワークシートの使用などについての周知を行ったことで、ワークシートの活用や対話的な学習の実施につながった。 | ・今年度見直した蓄積内容やワークシートについて、実際に活用した状況や課題等についての確認、検討を行う。 ・引き続きキャリアパスポートの活用について周知し、活用の定着を図る。 |
| 3 健康の保持増進に必要な資質・能力の向上を目指すとともに、運動を楽しむことのできる素地を培う。 | 健康指導部 各学部 | | ・運動、スポーツを「知る(見る)、行う、応援する」を通して、運動(体を動かすこと)の楽しさを味わえる学習を工夫して行う。 | ・運動、スポーツのやり方やルール、道具などの工夫を行い、学部や学級、児童生徒の実態に合わせた、わかりやすく楽しさを味わえる学習を設定することができたか。 | A | ・体育以外で体を動かす活動や、学習場面の設定(ゆとりの時間、朝のトレーニングの時間など)をし、実施した。 ・スポーツへの興味関心を持たせるために、全スポの競技や出場者である高等部生の応援を行った。 ・児童生徒の発達段階や実態に合わせてICTの活用やルールの工夫を行った。 | ・他の教科学習と同様、児童生徒の発達段階に応じ、工夫を講じながら、わかりやすい授業を展開し、学ぶことの楽しさを伝える授業を行うことができています。 |

| | | | | | | | |
|--|-----------------------|---------------------------------|--|---|---|--|---|
| 4 本校のさらなる躍進を誓い創立40周年記念事業を成功裏に進める。 | 特別活動部 学習指導部 各学部 | 創立40周年記念事業実行委員会 | ・創立40周年記念事業において児童生徒が様々なことにチャレンジしたり参加したりすることができるよう学習活動に取り入れ、計画的に実施する。 | ・児童生徒が記念事業に主体的に参加することができるよう、学習場面を設定することができたか。 | A | ・早くから組織的に取り組んだことで、児童生徒が関わることのできる活動は何か考え、工夫して取り組んだ結果、様々な活動に児童生徒が関わることができた。 ・全校生徒による壁面作品制作、記念ダンス、装飾づくり、ドローン撮影など、児童生徒の活動の場を設定することができた。 ・他学部と一緒に活動することもでき、みんなで「40周年を祝う」という意識付けにもつながった。 | ・創立50周年に向けて資料や写真を整理し、児童生徒がどんな活動に取り組んだのか記録して、引き継ぐ。 |
| 〔家庭や地域との連携〕 1 家庭や地域との連携・交流・協働によって開かれた教育課程を実現し、特色ある学校づくりを推進する。 | 渉外部 | | ・登録ボランティアの活動の場を広げ、外部の人材を活用することで、教育活動を活発化させる。 | ・登録ボランティアの活動に関して、教育課程内の活動に限らず、PTA活動への参加募集を行い、様々な活動に参加してもらうことができたか。 | B | ・ボランティア活動の場を広げ、ボランティアへの通知を前期・後期に分けることで、計画的に周知でき、参加する人数も増えた。給食支援ボランティアに関しては、一定の人数が確保でき、定着しているのではないかと。授業支援ボランティアにも希望をする方、PTA活動(夏祭り、ふれあいコンサート、みどり会親睦会など)への参加も増え、ボランティアの活用が広がっている。また、教職員の理解が各学部で授業支援ボランティアを受け入れてもらうことにつながっている。 | ・ボランティアに参加してくださる方が決まってしまうのが現状である。平日の活動になるので仕方ないが、より参加しやすい内容を検討し、登録ボランティアの活動の場を広げていきたい。また、現在、授業支援ボランティアの回数を週3回と決めているが、給食支援ボランティアはボランティア養成講座を受講した方に行ってもらっていたりする。回数や養成講座を受けなくてもできるボランティアの内容を検討し、より多くの方が活動できるようにする。 |
| 2 児童生徒の学びと豊かな生活を保障するため、地域資源の活用と行政、医療、福祉等関係諸機関との連携を深める | 児童生徒指導部 地域支援部 | | ・児童生徒の生活上の問題解決のために、地域の行政、医療、福祉等関係諸機関を積極的に活用する。 | ・様々な問題等に対応するため、関係諸機関が連携し情報共有できる機会を設定することができたか。また、共有した情報をもとに、対策等を検討することができた。 | B | ・外部関係機関を交えたケース会議を18件(外部13件)実施し、様々な問題に対して情報共有、対策検討が行われた。諸課題に対して、相談を行える環境設定が少しずつできた。しかし、問題等を複雑化、長期化させないためにも、迅速かつ組織的に対応できる基盤作りが引き続き必要である。 ・様々な問題等が複雑化するなかで、対応する係に求められる専門的な知識等がより求められている。 | ・様々な問題等を迅速かつ組織的に対応していくため、校内教育相談等の取組を教員間で共有し、体制を強化していく。 ・係を中心に研修を受け専門知識等の向上を図る。また、研修内容を全教員に発信し共有を図ることで、教育相談等に係る知識等のベースアップを図る。 さらに、より専門的な対応が求められるケースに備え、外部専門家と日頃から情報交換・共有を行い、準備体制を整えておく。 |
| 〔教職員の働き方〕 1 様々なスキルの向上を目指して自ら学び続けることのできる環境づくりを進める。 | 教務部 | | ・校外、校内の研修で学び得たことや、それぞれのキャリアの中で身に付けた知識、技術を積極的に発信、共有することで、個々の教員のスキルアップを図る。 | ・参加した研修内容の周知や教材教具、指導事例の共有、研究協議などを通して、学んだことを指導に取り入れることができたか。 | A | ・全体の研修会の他、校内の希望者対象の研修会に多くの教員が参加したり、事例検討会や授業研究会がそれぞれの学部や学級で実施されたりするなど、スキルの向上を目指した取組がなされた。また、校外での研修の資料を回覧したり、学年で共有するなど、限られた時間で効率的にスキルアップを図ることができた。 | ・時間的な制約もあり、外部の研修に参加する機会は多くはないのが現状である。今年度、筑波大学のオンデマンド研修を申し込み、10月～2月までの配信期間に教員が自由に視聴できるスタイルの研修を取り入れた。同様の研修があった場合には積極的に紹介し、研修の機会をより広げていけるとよい。 |
| 2 心身の健康の保持増進と、ワークライフバランスを意識した働き方改革を推進する。 | 教頭 | 学校安全衛生委員会 校務運営委員会 さわやか委員会 | ・業務の内容・実施方法等の見直しを行い、業務をスリム化すると共に、教職員一人一人の業務に充てる時間を確保する。 | ・分掌部や学部等で業務の簡略化や削減の検討をすると共に、業務時間を確保する方法を検討し、時間の確保につなげることができたか。 | B | 職員会議のオンライン実施を試行したり電子決済を導入したりするなど、業務の効率化が少しずつ進んでいる。また、次年度に向けて下校時間や保護者宛通知の出し方なども検討がされてきている。数字だけ見るとA・B合わせて90%と学校全体としては業務のスリム化や業務時間の確保が進んでいると考えられる。 | 一人ひとりを見ると「業務が多い」「多忙だと」感じる教員もいて、まだまだ業務量が減った、多忙感が無くなったと実感するには至っていないのが現実ではないか。今後も地道に取り組んでいく必要はあるが、全校で同じ大きな目標で取り組むのよりも、一人ひとり、学部や校務分掌部などでの取組みを積み重ねていくことが効果的と考えられる。 |
| 3 情報共有と役割分担を意識し、組織力の向上を目指した協働体制の確立を図る。 | 教頭 | | ・児童生徒や校務分掌部業務の情報を共有し、チームとして児童生徒指導や業務を行う。 | ・各種会議、学部会、学年・ブロック会、Teams、ケース会議、校務分掌部会等を利用し情報共有をすると共に、学年や学部全体、校務分掌部として意識して取り組むことができたか。 | B | 大小のケース会議を開き、児童生徒の課題をチームとして検討することができた。 学部会や学年・ブロック会の際は児童生徒の情報共有する時間を設け、課題のある児童生徒の現状を共有することができた。 校務分掌部会においてそれぞれの係の状況の情報を共有することができた。 | 児童生徒指導や学部・校務分掌部業務など、仕事を抱え多忙な教員もいる。一人で抱え込まずに協力を仰ぐことも必要だが、誰もが忙しい中、なかなか頼めないという状況もある。協力体制をとることができる環境づくりが大切である。 |